

令和3年度第2回長崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和3年11月15日(月)9時00分～10時30分
- 2 場 所 第二応接室(市役所本館3階)
- 3 出席者 **【市長】**
田上市長
【教育委員会】
橋田教育長、中西委員、桑原委員、松本委員、北川委員
- 4 事務局 **【市長部局】**
企画財政部都市経営室長、同室主幹
【教育委員会事務局】
教育総務部長、総務課長、同課総務係長、生涯学習課長
学校教育部長、学校教育課長、教育研究所長
- 5 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 内容
 - ①意見交換事項
 - ア 長崎市教育大綱について
 - ②その他
 - (3) 閉会

6 議 事 以下のとおり

<p>事 務 局 (都市経営室)</p>	<p>【9：00 開会】</p> <p>ただいまから、令和3年度 第2回長崎市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>次第に沿って市長に進めていただきます。</p> <p>よろしくお願いします。</p>
<p>市 長</p>	<p>それでは、今日の会議は1時間半でございますので、早速、議題に入りたいと思います。次第でいうと、2点目のところ、『(1) 意見交換事項 「ア長崎市教育大綱について」が今日のメインの議題ということになります。</p> <p>前回は、8月2日に今年度1回目の総合教育会議を開催しました。その時には、この大綱の「基本理念」、「ひとづくりの基本姿勢」、「めざすすがた」それぞれの方向性についてご協議いただきました。</p> <p>それから、「めざすすがた」の内容、文章部分については、時代の変化ですとか、特に今回の教育大綱でどういったことに気を付けないといけないかといったような点について、いろんなご意見をいただきました。それについては、後程、事務局から説明させていただきますが、前回いただいた意見をもとに、今回、「めざすすがた」の柱（大項目）、「めざすすがた」の内容、文章部分を整理しましたので、それについて皆さんと議論をして、教育大綱をより煮詰まったものにしていきたいと思います。それでは事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事 務 局 (市長部局)</p> <p>市 長</p>	<p>【事務局説明】</p> <p>今の説明は、前回の会議でいただいたご意見や、その後の様々な議論を経て、付け加えるべき点、変更するべき点に加えて、そのプロセスについての説明でした。</p> <p>具体化すればするほど、少しずつ見えてくる部分もあり、変わってくる部分があって、それは進化しているということだと思っておりますが、皆さんの方から、いろんなご意見、ご質問がございましたら、自由にどうぞよろしくお願いします。</p> <p>情報が多すぎて、どこから話をすればいいかわからないということもあると思いますので、口火を切るという意味で私から一つ気づいたことをお話ししてよいでしょうか。</p> <p>先月、まちづくりアイデアコンテストというものがありません。</p>

にもご出席いただいて、いろんな面白いアイデアが出て、実現しそうなものも結構ありました。今までに実現しているものとしては、最近でいうと、弱虫ペダルのマンホールなどがあるわけですが、そういう動きがありました。

それから、つい先日、子ども国際シンポジウムが出島メッセで開催され、恐竜について、子ども達がオンラインで、オランダの研究者と話をしました。本当は、オランダの子ども達と長崎の子ども達がオンラインでやり取りをするはずだったのですが、オランダが新型コロナウイルス感染症の感染状況が悪く、子ども達が集まれないということで、オランダの学芸員の先生や館長さんが来てくださり、話をしました。子ども達は、同時通訳のレシーバーを耳に付けて、会議に参加しておりました。

それから昨日は、地球温暖化をテーマにした、小学校、中学校、高校の生徒達が何回かいろんな議論をして、大人たちに、市議会議員や市長に、こういうのを提案したいというのを、議場で私たちに教えてくれました。その他にも、先週金曜から昨日まで、MICE EXPOというイベントが出島メッセで行われ、子ども達が、「はたらキッズ」というブースでいろんな企業の体験をし、文明堂のコーナーでは、三笠山を自分たちで作ったり、銀行のコーナーでお札を数えたりですとか、消防の体験もあったり、いろんなお店のいろんな面白い体験があって、行列ができたり、予約がすぐ埋まったり、すごく人気がありました。キッズニアの長崎版のようなもので、実現してみると、やはりいいなと感じました。最近のものだけでもそれだけあるんですが、それ以外にも、「子どもゆめ体験」で姉妹都市に子どもたちを派遣して受け入れてもらったりしていますし、スポーツ国際交流で、ブラジルに行ってサッカーの試合をしたり、それからラグビーはスコットランドに行って試合をしてみたり、そういったかたちの体験も用意しています。

長崎のまちは、そういうことを体験できるチャンスが作れるまちでもあるので、子どもたちにいろいろ体感してもらい、もっと言えば、心感してもらいというか、心でも感じてもらう、いろいろ勉強して言葉でどうこうということよりも、感じてもらうというような機会をいっぱい持てるまちであると思います。

今回の教育大綱で、6つのめざすがたに分けようとしています。さきほどお話しした、子どもの国際会議を毎年長崎で開けるようにしたら、それはすべてのめざすがたに通じるように思います。それをひとつ行うことで、国際性や、長崎をこうしたらということもあったり、平和をテーマにすれば、平和の項目にもなるし、多様性にもつながるし、もちろん環

	<p>境にも繋がっていくと思います。</p> <p>分析して、めざすすがたのように整理していくのは大事ですが、具体的などころから考えると、今挙げたいくつかのイベントは、めざすすがたの中のいくつかを含んでいる感じがするので、これからやっていくこととして、長崎にいるとこうということが体験できる、ということを意識的に皆で工夫をして、具体的に用意ができれば、子どもたちが、育つ、感じる、心感するチャンスになり素敵だと思います。五次総を具体化する中で、そういうものをめざしていくことができると思います。今はまさにそういう時代で、長崎はそういうチャンスをつくれる、つくってあげられるまちなので、それをどんなふうに具体化し、組み込めるのかというのは、よくわかりませんが、体感するチャンスを積極的につくりますという精神を持っていくといいなと思いました。</p> <p>教育長からも、子どもシンポジウムなどの感想があったら教えてください。</p>
教 育 長	<p>土曜日の「子ども国際シンポジウム」は、市長がおっしゃったように、同時通訳の会議を、新しくできた出島メッセという所で体験ができ、非常に良い経験だったと思います。</p> <p>特にテーマが恐竜だったので、子どもたちが集まってくれたということで非常に良かったと思います。</p> <p>あのようなものが、いろんなテーマで続けられると、市長が言われたように、さまざまな所に繋がる事業になるのかなと思います。</p> <p>それから、今まで行っている「まちづくりアイデアコンテスト」であったり、「中学生議会」の取り組みも、長崎のことを知ったり、長崎のまちを良くするために、あるいはもっと身近な地域を良くするために、自分達が具体的にどう動けば良いかという所まで発信して考えてくれているので、そういう意味では、これまでの取り組みも含めて、良い流れになっているのかなと思います。</p>
市 長	<p>今の意見を受けての意見でも良いと思いますし、他にもいろいろありましたら、まだ最終版にいろんなご意見が活かせる段階ですので、皆さんからご自由にご意見頂けたらと思います。</p>
委 員	<p>市長からあった「体験」ということについて意見を述べさせていただきます。今回の案の中で「学校教育」と「生涯教育」をきちんと分けていただいたということは、とても大事だと思います。6項目のめざすすがたに</p>

	<p>向けて、「体験」というのはとても大きな力になると思います。</p> <p>「生涯教育」においても「学校教育」においても「体験」をすることで、知識として残る、体験したことは生涯忘れず、身につくと言われていいますので、長崎の大切なものは「体験」の中で伝わっていくのかなと思います。</p> <p>学校の方では教育プログラムとして組み込むことができますが、前回は申しましたように、高齢者も含めて、たくさんいる「生涯教育」の対象となる方々にも、ぜひ、大きな体験、いろんな体験をしていただきたいです。また、長崎を訪れる人達にも、ただ長崎のたくさんの施設を見ていただくだけではなく、たくさんの方の体験をしてほしい。「何かを体験する」という形であれば、再びまた訪れたいと思っていただけるのではないかと、というふうに思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>感想のようになってしまっていますが、初めてこの会議に参加させていただいて、教育大綱を初めて見て、例えば、めざすがたの1の「心身ともに充実し、自ら学び、考え、行動する人」について、ビジョンとしてはいいと思うけれども具体的にどうすればいいのか、オンラインで国際会議などを行ったり、ギガスクールで不登校の子がオンラインで授業を受けられたり、というようなビジョンに向けた特色のある具体策を出して欲しいし、我々も考えていきたいと感じました。</p>
<p>市長</p>	<p>今のお話について、事務局から何かありますか。</p>
<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>資料5の左側に「総合計画・前期基本計画」の施策体系を記載しております。真ん中の列が、その中から「ひとづくり」の要素を抜き出したもので、具体的にどのような取り組みや政策を進めていくのかということになります。</p> <p>基本的には「教育大綱」が大きなビジョンになるのですが、この「ひとづくり」の要素については、「第五次総合計画」の中でも、政策の大きな方向性として掲げており、その中で、個別具体的な事業を進めております。その中で、各政策を進めながら、毎年、どのような取り組みをすればいいのか、事業を効果的で具体的なものにするには、どのような見直しをすればいいのか、といったことを考えながら進めているところです。</p>
<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>たいへん良い意見を頂きましてありがとうございました。</p> <p>今の説明にもありましたように、この「教育大綱」はあくまでもビジョンを掲げるものでございまして、これをしっかり具体化していくことが大</p>

市 長	<p>事だと思っております。</p> <p>例えば、ご意見頂いた「心身ともに充実し、自ら学び、考え、行動する人」をどのようにつくっていくのかというのは、具体的にいろいろ考えていくのですが、この部分というのは、教育の中でも特に基本的な部分になるのかなと思っております。Society5.0を目指していくに際しては、先ほどもあったギガスクールの実現で、一人ひとり ICT を使いこなすことのできる技術を身につける、そういった取り組みをしっかりと行っていくことが大切であると思っております。</p> <p>今、委員及び市長の方から話がありました「体験」というのも、非常に大切になっていくのかなと思います。先ほどの「国際会議」であったり、「キャリア教育」も大切で、市長も冒頭でおっしゃられましたが、「はたらキッズ」での体験を通して、長崎でどのような仕事ができるのか、どのような将来を描いていけるのかをイメージしてもらうのは、将来の担い手をつくっていく上で、たいへん大事な教育になっていくのではないかと思います。</p> <p>長崎では、新たな文化施設を予定していたり、民間企業と連携して、サッカーやバスケットボールを楽しめるまちづくりを進めていたりしています。これまで体験できなかったことも、子ども達、あるいは皆さんが生涯にわたって楽しんで体験をしている、そういったまちづくりを行っていくことが、将来の担い手づくりにおいても、大切になるのではないかと考えております。</p> <p>資料5で見たときに、右端のめざすがたの部分はすごく大きく捉えているわけですね。それを分析して、真ん中の「ひとづくり」の要素の部分に分かれていって、その先にもっと具体的な事業がぶら下がっていくような形に、最終的になっていくと思うのですが、分析していくという方向性の整理と、具体的に行っていることから、めざすがたのビジョンの所に繋がるようなことなどがあり、一つ一つ綺麗にぶら下がる訳ではなくて、「これとこれとこれに関係している」というようなものが現実にはあるので、大きく見る視点も大事だと思います。</p> <p>長崎は「グローバル」を体感することができるという強みがあるため、分析する視点だけでなく、大きく捉える視点も必要だと思います。</p> <p>「ひとづくりの基本姿勢」の中の「つながりと創造」は大事にしている言葉です。つながることによって、できなかったことができるようになったり、力が大きくなったりすると思うからです。</p> <p>それからもう一つは創造するということ。今の社会を維持するだけでは</p>
-----	---

	<p>なく、新しい方法を見つけて創造していくことは、今の時代にすごく大事なキーワードだと思います。</p> <p>つながりと創造を大事にするという視点では、例えば、「つながりと創造を体験する」とか「体験でつながりと創造を身につけていく」というような基本姿勢の書き方でも良いのかなと思います。</p> <p>「つながりと創造で未来の長崎へ」の「未来の長崎へ」というのが、何について言っているのかが弱い感じがするのと、総合計画では「新しい長崎へ」となっているのに対し、ここでは「未来の長崎へ」となっていて、その違いもよく分からないので、むしろ、つながりと創造に加えて、キーワードとして体験や、体感という言葉も上手く組み合わせて基本姿勢にすると、より具体的な方向性が見えるように感じます。</p> <p>事務局から何かありますか。</p>
<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>「つながりと創造で未来の長崎へ」としているのですが、前回の教育大綱を策定する際に、時間の流れを分かりやすく表現するために、「新しい長崎へ」という表現を「未来の長崎へ」に変更した経緯があります。確かに少し漠然とした、抽象的な表現になっているというのは、そのとおりであると思います。</p> <p>それから、お話を頂いた「体験」という言葉ですが、基本姿勢の部分は全体に関わる文章でありますので、加える方向で検討したいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>前回と比べると、いろんな要素が入ってきて、充実して良いなと思います。しかし、要素が多くなると、具体策をどのようにするのが難しくなってしまう。具体策を作る際には、市長がおっしゃっていたように、体験する機会をたくさん作る事が大切だと思うので、なるべく多くの機会を作ることが教育委員会の使命だと思います。</p> <p>その上で、機会を作るだけでなく、多くの人に参加してもらえるように、体制を整えていくことも大事だと思います。</p> <p>それから、今のめざすがたは、第五次総合計画の基本施策から要素を抜き出して、それをグルーピングして、タイトルを付けていると思うのですが、五次総に含まれない部分も、趣旨に反しないのであれば、加えても良いのではないかと思います。</p>
<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>ご意見ありがとうございました。委員のおっしゃるとおりだと思います。基本的に、第二期の長崎市教育大綱のつくりとしては、第五次総合計画はあくまでもまちづくりの計画ですので、その中からひとつづくりの要素</p>

	<p>を取り出して、体系付けたところであります。</p> <p>基本的にはこういった計画を作る場合には「バックキャストिंग」、いわゆる将来のビジョンをまず掲げて、どうしていけば良いのかを体系づけていくのがスタンダードな方法なのですが、長崎市の場合は、まちづくりの計画である第五次総合計画を作っているの、そこから抜き出して組み上げ、それを将来の長崎に照らし、ひとつづくりの要素として並べた時にどうであるかを俯瞰して見て、足らざる視点については、今のトレンドをしっかりと捉えた形になっているのか、微調整を行って、今の形に一旦体系付けているところでございます。</p> <p>委員のおっしゃるとおり、第五次総合計画にこだわらなくても良い、というのは当然あるかと思っておりますので、何かありましたら、ご意見としてぜひ頂きたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>資料を読ませていただきながら、前回の会議で出された意見をすごく反映した、時代に即しためざすがたになっているなど感激をいたしました。</p> <p>個人的には、資料8の1ページ、1番の一番右端5行目のところを「幼児期からの教育」という言葉に変えていただいたことで、幼児期の教育に関わっている人間として、当事者意識が上がったというか、ほかの人にも伝えていかなければならないと思えました。</p> <p>また、資料8、2ページ目「3多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと」の(1)に「命の大切さを実感し、自分のことも他人のことも大切に作るひとを育てます。」と明記してあり、これで良いと思うのですが、「自分のことも」というところについて、今、自己肯定感が低い子どもが多いという話を聞くので、もう少し「自分のことも大切に作る」というところを強調できると、意識が変わっていくのではないかなと思えました。</p>
<p>委 員</p>	<p>資料を読ませていただきながら、前回の会議で出された意見をすごく反映した、時代に即しためざすがたになっているなど感激をいたしました。</p> <p>個人的には、資料8の1ページ、1番の一番右端5行目のところを「幼児期からの教育」という言葉に変えていただいたことで、幼児期の教育に関わっている人間として、当事者意識が上がったというか、ほかの人にも伝えていかなければならないと思えました。</p> <p>また、資料8、2ページ目「3多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと」の(1)に「命の大切さを実感し、自分のことも他人のことも大切に作るひとを育てます。」と明記してあり、これで良いと思うのですが、「自分のことも」というところについて、今、自己肯定感が低い子どもが多いという話を聞くので、もう少し「自分のことも大切に作る」というところを強調できると、意識が変わっていくのではないかなと思えました。</p>
<p>事 務 局 (市長部局)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今いただいたご意見は、非常に大事なご意見だと思っておりますので、文言については検討していきたいと思っております。</p>
<p>市 長</p>	<p>教育委員会の方から何かありませんか。</p>
<p>事 務 局 (教育委員会)</p>	<p>「自分のことも他人のことも大切に作る人」について、他人のことを大切に作る子どもは、自分のことも大切にしている子どもだと思えます。さらに、自分のことを大切にするには、大切にされた経験が必要だと思いま</p>

<p>委員</p>	<p>す。</p> <p>自己肯定感というのはとても大切な感覚で、これが身に付けば、成長していくにあたって、とても良いことだと思います。</p> <p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>「めざすすがたの柱（大項目）の考え方」の6について、「まち」という言葉が使われているのですが、私の感覚では「まち」という言葉から浜町を連想してしまいます。もしかすると、市民の中にもそのように思う人がいらっしゃるかもしれませんし、また、「地域」から「まち」という表現に変えると、捉え方が小さくなったように感じるので、検討し直したほうが良いのではないかと思います。</p>
<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>私たちも、地域が一番大切だと考えておりますが、検討する中で、地域、経済、産業、という意味を含め、多面的な形で捉えようということで、「まち」という言葉を使用いたしました。</p> <p>ですので、そういった思いが伝わるように、配慮して参りたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>「まちづくりアイデアコンテスト」や「あじさいスピーチコンテスト」で、子ども達に、自分が興味を持っている話題について発表してもらっているのですが、それを聞きますと、子ども達が、自分たちが住んでいるところを「まち」と考えて、自分のまちや、地域をこうしたいと考えたり、もっと大きな視点で考えたりし始めているのかなと思いました。</p> <p>それは、長崎を愛する心を持って、自分の住んでいるまちから、住みやすいように変えていこうという意識が、少しずつ芽生えてきている状況があるのではないかと感じています。</p>
<p>市長</p>	<p>「まちづくり」の「まち」とはいったい何なのか、ということについては、長い時間いろいろな議論がなされていて、最初は「町」を使用したり、その後は「街」を使用したりしておりました。そのような中で、いろいろな意味を含んだ全体的な言い方として、ひらがなの「まちづくり」を普及させていこう、という動きがあり、今ではひらがなの「まちづくり」が主流になってきております。</p> <p>しかし、すべての人が、そのような認識をしているわけではないので、変更するのかどうかは検討してみたいと思います。</p> <p>他にも何か意見がありましたら、検討していくうえでのヒントになると</p>

市 長	<p> 思いますので、気づいたことがあったら教えてください。 </p> <p> 皆さんからいろいろな意見を頂きましたが、大きな方向性としては、このままでよろしいでしょうか。 </p> <p> いくつかまだ文言の整理であったり、どのように具現化していくのかという点での説明を分かりやすくできるようにしておく必要がある、ということだろうと思います。 </p> <p> 総合計画もそうですが、どこかを摘み出して、そこをすごく重点的に書くことや、大小をつけることよりも、基本的に網羅性を重視しているので、漏れの無いように整理していくということが大事なんですが、第五次総合計画の場合は、そこに新しい時代の変化を入れて、少し戦略性を持たせたものになっているかと思います。 </p> <p> 今回の教育大綱も、基本的には網羅性を持たせていますが、完全に網羅することは難しいので、漏れるものがあるときは、小さい項目には入っていないけど、大きい項目には入っているというような整理に切り替えて、そこからもう一度作り直すなどしていく必要があると思います。そして、教育大綱を具現化し、活用していくことが、目指すところであり、先程の事務局からの説明は、そういった方向性を示すものだったのであろうと思います。そのことが分かりやすいような整理や工夫を今後も検討していきたいと思います。 </p> <p> では、教育大綱については、今日もまたいろいろなご意見をいただきましたので、前回同様、少し変化させていけるとと思います。ありがとうございました。 </p> <p> それでは、「(2) その他」に入りたいと思います。 本日の議題以外のことで、何かありますか。 皆さんから発言したいことがあれば、よろしくお願いします。 </p> <p> 先程言ったことと重なるのですが、「子どもの国際会議」を長崎で定番化させてはどうかと思います。外国の子ども達と長崎の子ども達が、毎年テーマを変えて話をしたら、おそらくかなりいろんな違いを発見でき、自分たちが絶対ではなく、違う場所では違うことが行われているということを体感できると思うからです。また、今はオンラインがあるので、そんなに難しいことではないと思いますので、定番化させて、長崎の名物にしたら良いのではないかと思います。早速、来年度の予算から入れ込んでいったら面白いと思います。 </p>
-----	---

	<p>教育大綱も総合計画もですが、一年目の時に、何か具体的に行っていかないと、単なるお題目になってしまうと思います。そういう意味では、ひとつづくりの基本姿勢に書かれている、「つながりと創造」や「体験」などを具現化したシンボル事業のようなものがあつた方が、分かり易くなって良いと思います。「子ども国際会議」は、長崎らしさを活かした教育環境のありかたという点で、すごく良いシンボル事業となるのではないかと思います。</p> <p>他に何か意見はありませんか。</p>
<p>委 員</p>	<p>10月から委員をさせていただいて、いくつか学校を見させていただく中で、現場では、お互いにチェックして、高めあつていこうとする作業をすごく一生懸命行われているなど感じました。</p> <p>自分も親として、子どもに、実直に授業とか勉強に向き合わせないと失礼だなというところがあつた中で、先程、「自分のことも他人のことも大切にするとありましたが、そこに家族や親の役割は必要だと思います。ですので、親の教育というか、親も成長していけるような要素があれば、面白いのかなと思いました。</p>
<p>市 長</p>	<p>この意見について、教育委員会はいかがですか。</p>
<p>事 務 局 (教育委員会)</p>	<p>家庭教育というのは生涯学習の分野でも、項目を立てて実践しているところであり、PTAの皆さんの力を借りながら、学校の方に出向いて行って講座の開催などを行っているところです。</p> <p>また、PTAの活動をされていない方々も、一緒に入り込めるように、学校をお願いをしているところです。</p> <p>コロナの関係で少し停滞していた部分もありますが、学校と家庭のつながりを増やしていけるように、取り組んでいきたいと思っております。</p>
<p>事 務 局 (教育委員会)</p>	<p>家庭教育、生涯教育がないと、めざすすがたに掲げるような子ども達は育たないのではないかと思います。だから、学校教育、家庭教育、社会教育をしっかりと繋ぎ合わせ、教育大綱を共有し、地域社会と一体となって考えていくことが必要だと思います。</p>
<p>市 長</p>	<p>今の意見は、ずっと基本にしてきた、学校、地域、家庭が連携して教育力を発揮していくというところと繋がる部分で、具現化がすごく大事だと思います。</p>

<p>委 員</p>	<p>「ファミリープログラム」はどうなっているのですか。</p> <p>昨年からコロナの影響で、予定がキャンセルになることが続いている状況でした。しかし、最近予定が入ってきているので、チャンスがあれば取り組んでいきたいと思い、学校にも発信をしているところです。</p> <p>私が一番取り組みたいと思っているところが、資料8、2ページの3、「多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと」の(2)、「人種、民族、国籍、性別、年齢、障害の有無、思想、性自認や性的思考など自分とは異なる個性や生き方、考え方を認め、尊重できるひとを育てます。」というところです。子ども達よりも、大人の世代の方が無意識の内に差別している部分があると思います。大人のすり込みによる影響は大きいと思いますので、何かの形で保護者の方々にも発信できればと思います。</p>
<p>市 長</p>	<p>すごく良い取り組みだと思いますので、コロナの影響もありますが、今後も取り組んで欲しいです。</p> <p>他に何かございますか。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>教育大綱とは少し離れるのですが、この会議の中で、実際に現場に行くということも取り組んでいたようですが、今年度は、そういったことは難しかったのでしょうか。</p> <p>今後の予定を教えてください。</p>
<p>事 務 局 (市長部局)</p>	<p>年に一回、現場の視察などを行っていたところです。</p> <p>コロナの状況もだいぶ落ち着いてきましたので、検討をしていきたいと思っています。</p>
<p>市 長</p>	<p>他に何かございますか。</p> <p>無ければ、今後の総合教育会議の開催予定について、最後にお知らせしたいと思います。</p> <p>今後は、事務局からの説明のとおり、今日の議論を踏まえて、教育大綱については素案の修正を行い、議会からの意見をお聞きし、パブリックコメントで市民の皆様からのご意見をいただく、という流れになります。</p> <p>次の総合教育会議は、2月以降の開催を予定しておりますが、そこで最終案についてご協議いただく、ということになっておりますので、よろしく願いいたします。</p>

具体的な日程については、事務局にて調整をして、改めてご連絡をさせていただきます。

以上で、今日の総合教育会議を終了したいと思います。

ありがとうございました。

【10：30 閉会】